

優先順位	改善項目		改善目標	改善に向けた計画内容	期間	評価(平成19年3月15日現在)
	自己	外部				
1	83	48	職員は、利用者の薬について用法、用量、副作用を承知しており、医師の指導通りに服薬できるように支援している。	薬を利用者が確実に服薬できるように飲み終わるまで確認するように職員に徹底していく。	随時	薬の飲みこぼしなどがなくなり最後までの確認を職員同士が気をつけるようになった。
2	1	1	グループホームの運営上の理念や方針等を具体的にし介護従事者に日常的に話している。	ホームの理念を職員全体で話し合い決定し、見やすいところに掲示しミーティング等で唱和している。	随時	ホーム全体で分かりやすい目標を作り意識の向上をはかっている。
3	25	20	確実な申し送りや情報伝達ができるような仕組みをつくっている。	業務日誌及び回覧などで申し送りの徹底を行なっていく。	随時	両方で情報伝達しサインをすることで確実に伝わるように努めている。
4	85	49	緊急時職員は応急手当を行うことができる。	緊急時の対応についてミーティングを開くようにしている。	随時	ミーティングや申し送りの徹底で大半の職員はできているが、新しい職員についても今後指導していく。
5	101	55	成年後見制度の活用を推進している。	研修等に参加したり市役所との連携を取っている。	随時	成年後見制度について理解を深めていっている。
6	115	62	注意の必要な物品を明確に保管し管理している。	職員で話し合い、利用者が間違っ触れる事のない場所へ保管し管理している。	随時	利用者が間違っ触れてしまう危険性が減った。
7	117	63	事故報告をまとめて、その後のサービスの改善につなげている。	事故報告の後、検討委員会を開き同じことが二度と起こらないように話し合う。	随時	職員の意識も高まり、どういう方法をとればいいのか検討し伝達を密にしている。
8	21	16	介護計画をすべての職員が把握して気づきや意見をとり入れている。	全体会を利用し介護計画をみんなに把握してもらうようにし、変わったことがあれば申し送りや日誌に記入し徹底するようにした。	随時	申し送り、日誌、回覧などで徹底するようになった。
9	30	24	利用者一人一人の生活歴、習慣などを把握しホームにおいてその人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	職員が担当の利用者の生活歴、習慣を十分に聴き取り、把握し、それを全体に伝えるようにする。(全体会や申し送り)	随時	今は利用者について全員が把握しようとしている段階で今後暮らしの中でそれを生かしていきたいと思う。
10	134	72	ホームの機能を地域へ還元している。	そのような取り組みをしようと話している。運営推進委員会などでも議題にしている。	随時	まだ具体的に行なわれていない。今後課題としていく。
11	128	69	市町村との連絡を密にとり、市町村事業を積極的に受託している。	2ヶ月に一度運営推進会議を開き、市町村とかわりを持っている。	随時	少しずつ議題も提案していき、中身のある会にしていきたい。
12	11	9	身体機能の低下に配慮をしている。	浴槽の椅子を設置し、足のふらつきのある利用者の部屋には手すりをつける。	随時	居室の中での転倒などの心配が改善された。
13	144	73	職員は利用者や施設の状況を考慮に入れ夜間も念頭においた防災対策を講じている。	夜間の災害時の連絡方法や地域と連絡が取れるように手引書を作っておく。	随時	連絡網の徹底や地域にどう連絡すればいいか検討中である。